

プレスリリース [ 2009 年 6 月 26 日 ]

( 計 2 枚 )

## 町田市立国際版画美術館 「戦争と版画家」および「中村忠良銅版画展」を開催

6 月 24 日 ( 水 ) より常設展拡大版「戦争と版画家 オットー・ディックスと北岡文雄」を開催しています。この展覧会はドイツの画家オットー・ディックスと、日本の版画家北岡文雄による、戦争を題材とした版画を展示するものです。

これに合わせ、常設展示室では今期より、浮世絵と畦地梅太郎作品を、年間を通じて展示するコーナーを設けました。浮世絵の展示については「浮世絵玉手箱」という特別の展示ケースを新たにご用意しました。これは、お客様がご自身で展示ケースのカーテンを開いて浮世絵を鑑賞するもので、光に弱い浮世絵を保護する効果があります。

また、6 月 27 日 ( 土 ) より「中林忠良銅版画展 すべて腐らないものはない」を開催いたします。

中林は銅版の腐蝕から発想した「すべて腐らないものはない」という思想のもと、創作を続けている銅版画家です。今回の展示は 135 点の作品を通じ、現在に至る 48 年間の活動を一望します。

### 「中林忠良銅版画展 すべて腐らないものはない」の概要

すべて腐らないものはない 中林忠良はこの考えを根底におき、腐蝕による銅版画を制作しつづける美術家です。

中林忠良は東京藝術大学絵画科で油彩画を学びますが、しだいに油絵の具の感触になんともいえぬ違和感を覚えるようになります。そんなとき、銅版画の詩人とも謳われた駒井哲郎と出会います。中林は駒井哲郎の白と黒による表現世界に魅了され、銅版画に魅かれていきます。幼年時代をすごした新潟の雪深い風景のイメージがその世界に重なったことも大きな要素だったと中林は回想しています。

制作にあたり中林が選びとったのは、銅版を酸溶液に浸して制作する腐蝕銅版画という技法でした。酸によって金属が溶かされる性質を利用したもので、刻一刻と変容してゆくプロセス、朽ちてゆくその情景が中林の脳裏に「すべて腐らないものはない」という観念とその具体的なイメージを与え、彼は強く魅せられたのでした。

この展覧会は中林が銅版画と出会った 1961 年から現在にいたる 48 年間の創作活動をたどるものです。この創作の歩みは 7 つの局面に分けられ、それに版画集も加えた 8 部構成で、全 135 点の作品によって提示されます。これにより、作者が探求しつづけている表現の核心に迫り、彼が一貫して求め続けている世界観とは何かを考えてみたいと思います。

- ・会 期 2009年6月27日(土)～8月2日(日)  
月曜日休館、但し、7月20日(月)は開館、翌21日(火)は休館。  
<開場時間>  
・火～金 午前10時～午後5時(入場は午後4時30分まで)  
・土・日・祝日 午前10時～午後5時30分(入場は午後5時まで)
- ・観覧料 一般400(300)円、大高生200(150)円、65歳以上200(150)円  
( )内は20名以上の団体料金です。  
展覧会初日6月27日(土)は入場無料です。  
小中学生以下は入場無料です。
- ・展示構成と主な作品  
版画事始め 1961 1967 《磯からのたより》他  
衆と個 1968 1972 《O氏のうち絆》他  
状況の受容と反発 1972 1975 《剥離される風景》他  
ふたたび原点の模索 1976 1978 《師・駒井哲郎に捧ぐ 碑》他  
Position 野へのレクイエム 1979 1995 《Position 80・腐蝕》他  
転位 版、位相の構造 1980 2001 《Transposion 転位》他  
光(白)と黒(影)の拮抗と調和 1995 2009《転位 99 地》他  
オリジナル版画集 《剥離された日々》  
  
以上 135点

#### 関連催事

- ・作家を囲んでギャラリートーク 6月28日・7月19日の各日曜日
- ・館長によるスペシャルトーク 7月12日(日)
- ・学芸員によるギャラリートーク 7月5・26日、8月2日(すべて日曜日)  
全てのギャラリートークは、午後2時から40分程度です。観覧券をご用意のうえ、2階展示室入口にお集まり下さい。
- ・美術館で語りあおう!トークフリーデー  
展覧会初日を除く水・土曜日。「鑑賞のための静けさ」よりも作品をめぐる会話を楽しんでいただくという試みです。小さなお子さま連れの方も気兼ねせずにご入場下さい。

本件に関するお問い合わせ先

文化スポーツ振興部国際版画美術館副館長 古屋 TEL 042-726-2771